

**製品名: CD110 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81955**

研究使用のみ

**概要**

|        |   |
|--------|---|
| 説明     | マウスモノクローナル抗体                                      |
| 宿主     | ねずみ   |
| 応用     | ELISA,FC  |
| 反応性    | 人間  |
| 標識     | 非共役   |
| 修飾     | 未修正   |
| アイソタイプ | Mouse IgG2a                                       |
| クローン性  | モノクローナル   |
| 形態     | 液体  |
| 濃度     | 1mg/ml  |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋  |
| バッファー  | 0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体                       |
| 精製     | アフィニティー精製   |

**応用**

|      |                                     |
|------|-------------------------------------|
| 希釈倍率 | ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400 |
| 分子量  | 71.2kDa                             |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | CD110   |
| 別名           | MPL; MPLV; TPOR; C-MPL; THCYT2                  |
| 遺伝子 ID       | 4352.0  |
| SwissProt ID | P40238  |
| 免疫原          | 大腸菌で発現したヒト CD110 (AA: 余分な 26-175) の精製された組み換え断片。 |

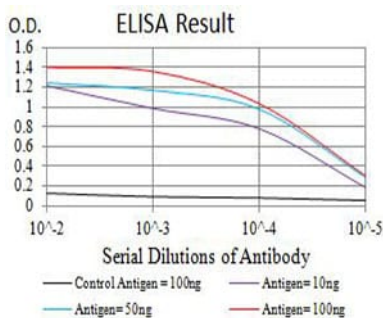
**背景**

1990年、マウス骨髄増殖性白血病ウイルスから、様々な系統の骨髄造血細胞を不死化できるがん遺伝子 v-mpl が同定されました。1992年には、ヒトホモログである c-mpl がクローニングされました。配列データから、c-mpl が造血受容体スーパーファミリー

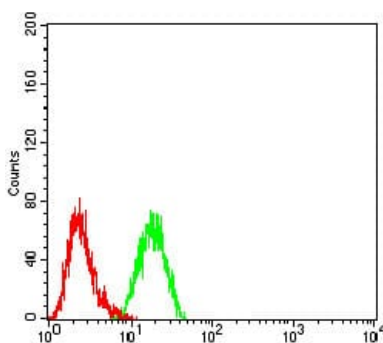
のメンバーと相同性のあるタンパク質をコードすることが明らかになりました。c-mplのアンチセンスオリゴデオキシヌクレオチドの存在は、巨核球コロニー形成を阻害しました。c-mplのリガンドであるトロンボポエチンは1994年にクローニングされました。トロンボポエチンは、巨核球造血および血小板形成の主要な調節因子であることが示されました。c-mpl遺伝子によってコードされるタンパク質CD110は、635アミノ酸からなる膜貫通ドメインであり、2つの細胞外サイトカイン受容体ドメインと2つの細胞内サイトカイン受容体ボックスモチーフを有する。TPO-R欠損マウスは重度の血小板減少症を呈し、CD110とトロンボポエチンが巨核球および血小板形成において重要な役割を果たすことが示唆された。トロンボポエチンが結合すると、CD110は二量体化し、非受容体型チロシンキナーゼのJAKファミリー、STATファミリー、MAPKファミリー、アダプタータンパク質Shc、そして受容体自体がチロシン酸化を受ける。

## 研究分野

## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



CD110 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した K562 細胞のフローサイトメトリー分析。